



秋田大学教育文化学部附属小学校 校報

# はとの子だより

No.6 令和8年6月15日(月)発行

学校教育目標 自律 のびのび きびきび わくわく

## 「自律した学習者が育つ授業デザイン」(2年次)の研究から

6月3日に開催したオープン研修会では、国語科(2年)と、理科(3年)の2授業を公開しました。慶應義塾大学教職課程センター教授の鹿毛雅治先生をお招きし、今後の研究推進に向けて貴重なご助言をいただきました。県内外の教員や大学生など50名が集まり、盛会のうちに終了しました。

本校では、昨年度に引き続き「自律した学習者が育つ授業デザイン」の研究主題のもとで研究を推進しています。子ども一人一人が問題解決に没頭し、自分自身の可能性を広げていくことができる、その子どもにとって意味のある変容が現れることを願っての研究主題です。

今年度の重点は「子どものドラマと教材のドラマを紡ぐ」です。今年度は、「ドラマ」と題して子どもの変容とその要因を探っていくことに焦点を当てています。本校では、子ども一人一人の学びを見取することを大切にしています。子どもの思考・感情・欲求を解釈し、なぜその子どもはそのような思考・感情・欲求を抱いたのかという背景を推察します。その上で、その子どもにとって、どのような学びがあったのかということ価値付けしたり、そのような姿が見られた要因を考察したりしていきます。

教師が行う授業デザインとは、子どもの発言や気付きを想定したり見取ったりする「子どもの学びにあるドラマ」と、教材研究を通して見えてくる「教材のドラマ」をうまく織りなし紡いでいくことであると捉えています。

オープン研修会で提案された2つの授業の様子を紹介します。

### ○2年A組 国語科 なりきって読もう「スイミー」 (授業者 鎌田 佳佑)

「文章中の描写を根拠に、主人公の気持ちを想像して読む」という資質・能力を高めることを目指した授業でした。演劇的手法を取り入れた話合いを行う中で、「スイミーの視点から見える作品世界の変化を具体的に想像させたい」という教師の思いが現れていました。作品の世界を読み味わい、叙述を基にスイミーの気持ちの変化に迫ろうとする子どもの姿が印象的でした。



## ○3年C組 理科 光と音の性質～音を震えてとらえよう～（授業者 門脇 千尋）

「音の大きさを変えたときの現象の違いを比較し、音の大きさと物の震え方との関係について考えをもつ」という資質・能力を高めることを目指した授業でした。音は物を通して伝わるのかという問題について、糸電話を用いて相手に声を届ける活動を通して、どんなときに音が伝わりやすいのか、伝わりにくいのか、結果を基に考察している子どもの姿が印象的でした。



本校の使命は、今日的な教育課題への対応を図りながら、先進的な教育実践を展開し、授業公開などを通して県内外に教育活動の成果を発信することにあります。参会者からいただいた感想などを、今後の研究推進に役立てていきたいと考えています。感想の一部を紹介します。

### <参会者の感想>

- ・授業の時系列に子どもの姿を事実で語り、その言動の要因や背景を深掘りする事後検討会のスタイルが参考になった。本校にも取り入れたい。
- ・本校では、事後の検討会が深まらないという問題意識を抱えている。事前のところから意識を変える必要があるので、事前・事後をセットで授業をデザインする附属小スタイルに変えていきたい。
- ・自分を表現したくて「もっと、もっと」と意欲を燃やしている子どもの姿が印象に残った。特に2年生は、とても素晴らしい発言をしたかと思うと、その直後に眼鏡の間に鉛筆を差し入れておどけていたり、とても気まぐれな様子が見られる子どもがいるのに驚いた。そのような子どもたちを、学習活動に没頭させる仕掛けとして演劇的手法を取り入れ、活動を通して学びを深めようとしている授業デザインが参考になった。

## 優勝おめでとう ～第37回工藤幹夫杯選抜野球大会～

4月26日に開催された「第37回工藤幹夫杯選抜野球大会」で、保野秋大附属野球スポーツ少年団が優勝しました。おめでとうございます。

先日、本校校長室にて、林正彦校長先生より賞状を伝達していただきました。

優勝旗は、校長室前に飾っております。ご来校の際には、是非ご覧ください。

